

# 大分の獅子舞【だいぶのししまい】



開催場所

飯塚市大分  
大分八幡宮

開催日

9月27日・9月28日  
大宰府天満宮の秋の大祭（9月23日）  
の折、大分の獅子舞を奉納する。

指定

福岡県指定無形民俗文化財

## 【芸能の概要】

大分八幡宮は、奈良朝の726（神亀3）年創建と伝えられ、朝廷の崇敬も厚く神事祭礼の折には、大宰府在庁の官人が参候して執り行われたという。福岡市の筥崎八幡宮の元宮で、八幡五所別宮の第一の名社として尊崇を集めていた。戦国時代の騒乱で絶えていた祭礼を、江戸時代の中頃の享保年間（1716～1736）に再興するにあたって、時の庄屋であった伊佐善左衛門直信が、1720（享保5）年村人15名（舞役8名、楽人7名）を2ヵ月間、都に上洛させて、男山の石清水八幡宮に伝わる獅子舞を習得させ、1724（享保9）年の放生会に奉納したのが始まりとされている。「享保九年七月 大分村放生会御祭始村中申極座本祭帳」（現在は「大当書送帳」と呼んでいる）の序文に「御獅子楽始候付十四日御宮祭座祈禱之爲執行有之・・・」と記録されている。

## 【芸能の特徴】

技楽系の獅子舞に属するといわれる「大分の獅子舞」は、280年の伝統をもっている。大分の獅子舞の所作にもいにしえの都の優雅なものを感じさせるものがあり、この頃多発していた災害や飢饉を背景に、獅子祈禱として大分の獅子舞は筑豊地方を始め、広域に広まったと思われる。大分系の獅子舞といわれる宗像郡津屋崎町勝浦の豊山神社の御神幸祭に奉納される獅子楽は、1748（延享5）年に伝承されたものといい、田川郡添田町落合の須佐神社に奉納される獅子舞や京都郡勝山町上久保にも伝わっていて、その他各地にある。獅子舞は放生会の他、昔は、春祭（卯ノ日祭とも呼ばれた）にも奉納されていた。昭和29年12月福岡県無形文化財に指定され、昭和50年に福岡県文化財保護条例の改正により、「大分の獅子舞」として無形民俗文化財となる。

## 【使用する祭具・道具など】

獅子頭は神事の時用いるものは、300年位前の角ばったもの。神事以外の時は、近年作ったものを用いる。笛は篠竹で作り自作。赤、黒の漆塗りで、穴は7穴。小太鼓は張り太鼓。パチは孟宗竹を筈のように削ったものを用い（太さや、しなり具合など、微妙な調整が肝心）獅子楽のリード役を務める。大太鼓は締め太鼓。パチは赤、黒に塗ったものを用い、音を確かめながら締め具合を調整する。鉦はチャンカタともいう。

### ・アクセス

JR 筑前大分駅より徒歩 15 分

### ・周辺の観光

内住コミュニティセンター、サンビレッジ茜、白糸ノ滝。  
筑穂町民ふれあいスキー大会(1月)、町民夏祭り(8月)、  
町民体育祭(10月)、星座観賞スターダスト祭(10月)、  
産業祭 in ちくほ(11月)

### ・近くの特産品

茜染め、筑穂牛、夏秋きゅうり、たけのこ、なす、  
いちご、自然薯。

